

第3章 市民講師育成プログラムの改訂案

1. 必要とされるカリキュラムの要素

各種アンケート・ヒアリングの結果、今回実施した2日間の講座だけでは、知識を正確に伝え、質問に適切に対応するといった、いわゆる「講師」の育成は難しいことが示唆された。これを踏まえ、講師育成プログラムの改訂版に必要とされるカリキュラムの要素を検討する。

「市民講師」の名称

「市民講師」という名称は、受講者にとっては要求水準の高さを感じさせ、自治体担当者にとっては講師の知識レベル・技能レベルに不安をもつ言葉であることが示唆された。したがって、「市民講師」を、一般市民により近い立場をイメージさせ、親近感を与える名称に変更する必要があると思われる。

(例)

- ・ 市民アドバイザー
- ・ 市民サポーター

「市民講師」の役割

まずは、地域の身近な人に情報を伝える。そして少しずつ、地域の集会などで啓発活動を行い、経験を積んだ後、最終的に講師として講座をもつといったように、役割を区分する必要があると思われる。

カリキュラムの種類

「市民講師」の役割を区分した上で、段階的に、講師として成長できるようなカリキュラムが必要と考える。

(例)

- ・ 「市民アドバイザー初級」(啓発活動者育成)
- ・ 「市民アドバイザー中級」(啓発活動者育成)
- ・ 「市民アドバイザー上級」(市民講師育成)

※ 受講者は、自分自身のポートフォリオを作成し、随時、学習履歴を記録して、講師としての成長を確認していくことが望まれる。

講座内容

知識編と技能編は、必ずしも分けて実施する必要はないと思われる。自治体担当者からも関連するコメントがあったが、むしろ、技能編のなかに知識編の内容を含め、演習を通して知識を獲得する方が効果的な学習になるかもしれない。

知識編

各種アンケート・ヒアリングの結果、および受講者の理解度から、今回取り上げたテーマ（「消費者問題概論」、「契約の基礎知識」、「消費者信用と多重債務」）は、今後とも必要だと思われる。特に、「契約の基礎知識」で扱われる「クーリング・オフ」は、市民講師を目指すにあたり、最初に押さえておくべき基本事項と思われる。したがって、これに多くの時間を割き、最新の事例を交えながら、丁寧に学習することが必要であろう。

また、受講者の負担を軽減し、講座を企画・実施しやすくするために、カリキュラムの弾力化、大綱化も重要であろう。例えば、現在6テーマ（「消費者問題概論」、「契約の基礎知識」、「消費者信用と多重債務」、「インターネット・携帯電話のトラブル」、「食生活を考える」、「くらしのなかの環境問題」）が必須であるが、このうち「消費者問題概論」のみを必須として、他は選択必修にすることも考えられる。

技能編

各種アンケート・ヒアリングの結果、および受講者の理解度から、今回取り上げたテーマ（「消費者教育概論」、「消費者教育指導法」、「講座プランの作成・発表」）は、今後とも必要だと思われる。特に、グループで行った「講座プランの作成・発表」は、受講者及び自治体担当者から非常に好評だった。演習形式で、グループディスカッションを通して講座プランの準備を行い、受講者自らが発表（講師の疑似体験）をすることは重要と言える。しかしながら、今回、いずれの自治体においても、準備の時間が足りなかったという声が出ていたため、今後は準備の時間を拡充することが必要と言える。

修了者へのアフターフォロー

講座修了後、受講者に、定期的な学習の機会を提供することは重要と考える。これは必ずしも講師を呼んで話を聞くといった講義を行うことではなく、「学習会」などの名称で、受講者を一つの場所に集め、ざっくばらんに話題提供や情報共有ができれば、まずは十分と思われる。

修了後の活動形態

すぐに個人で活動するのではなく、まずは、

- ・ 市民講師同士グループ（チーム）
 - ・ 相談員や専門家（弁護士など）、行政の担当者とのペア
- など、複数人で活動することが望ましいだろう。

2. カリキュラムの具体例

ここでは、1.を踏まえ、講師を育成するためのカリキュラム例を3種類示す。

① 3段階で講師を育成するカリキュラム

「市民アドバイザー初級」

知識編：半日（2.5時間）

技能編：1日（6時間）

「市民アドバイザー中級」

知識編：1日（6時間）

技能編：1日（6時間）

「市民アドバイザー上級」

知識編（必須）：1日（6時間）

知識編（選択必修）：随時、半日（2時間）

知識編（選択）：随時、半日（2時間）

技能編：1日（6時間）

② 学習初期段階の知識編の内容を絞り、いくつかの段階で講師を育成するカリキュラム

「知識編（必須）」

半日（2時間）

「技能編（必須）」

1日（6時間）

「知識編（選択必修）」

随時、半日（2時間）

「技能編（選択必修）」

随時、1日（6時間）

③ 知識編の内容を技能編に含ませた、技能編のみのカリキュラム

随時、1日（6時間）

時間については、固定化せず、受講者の負担を考慮して決めるのが望ましいだろう。
以下で示す時間数は一例である。

① 3段階（初級、中級、上級）で講師を育成するカリキュラム

市民アドバイザー初級

この初級カリキュラムは、1.5 日間の日程で行われる。1 日目は知識編として半日（2 時間半）、2 日目は技能編として1 日（6 時間）かけて実施する。受講者数は 20 人程度を想定。受講修了者は、地域の小さな集会で、談話として情報提供をするなどの役割を担う。

知識編（1 日目）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の学習目標 ・ 受講者の自己紹介 	20 分
2	消費者問題概論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者問題の歴史 ・ 最近の消費者問題、事例 ・ 法制度 ・ 行政の体制 	60 分
休憩			10 分
3	契約の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近の事例 ・ 関連する法制度 ・ クーリング・オフの概要 	60 分

※ 合計 150 分。例えば、9：30～12：00 で実施

技能編（2日目）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習目標 ・グループ分け 	30分
2	消費者教育概論 消費者教育指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育の目的 ・教材紹介 	30分
休憩			10分
3	講座プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者設定（講師設定） ・テーマ設定（講師指定） ・講座プランシートの作成 	50分
昼休憩			60分
3	講座プランの作成 （続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・講座プランシートの作成 	80分
休憩			10分
4	講座プランの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに模擬講座 （4人グループで15分程度） ・グループ同士で相互評価 	90分

※ 合計 360 分。例えば、10:00～16:00 で実施

※ 講座プランのテーマとしては、例えば「悪質商法とクーリング・オフ」など

市民アドバイザー中級

この中級カリキュラムは、2日間の日程で行われる。1日目は知識編として1日（6時間）、2日目も技能編として1日（6時間）かけて実施する。受講者数は20人程度を想定。受講修了者は、地域の比較的大きな集会で、情報提供をするなどの役割を担う。

知識編（1日目）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	・ 本日の学習目標 ・ 受講者の自己紹介	20分
2	消費者問題概論 (注)	・ 消費者問題の歴史 ・ 最近の消費者問題、事例 ・ 法制度 ・ 行政の体制	90分
昼休憩			60分
3	契約の基礎知識 (注)	・ 最近の事例 ・ 関連する法制度	90分
休憩			10分
4	消費者信用と多重債務	・ 最近の事例 ・ 関連する法制度	90分

※ 合計360分。例えば、10:00～16:00で実施

注 初級編より高度な内容。専門用語を多く使い（用語解説も含む）、法制度についても、代表的なものを中心に、実際の条文等、やや詳しく取り上げる

技能編（2日目）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習目標 ・グループ分け 	30分
2	消費者教育概論 消費者教育指導法 (注)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育の目的 ・教材紹介 	30分
休憩			10分
3	講座プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者設定（講師設定） ・テーマ設定（知識編の2、3、4から選択） ・講座プランシートの作成 	50分
昼休憩			60分
3	講座プランの作成 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・講座プランシートの作成 	80分
休憩			10分
4	講座プランの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに模擬講座 ・グループ同士で相互評価 	90分

※ 合計 360 分。例えば、10:00～16:00 で実施

注 初級編より高度な内容。専門用語を多く使い（用語解説も含む）、教材の具体的な活用法を取り上げる

市民アドバイザー上級（市民講師）

この上級カリキュラムは、3日間以上の日程で行われる。知識編については、必須テーマ1日（6時間）と選択必修テーマ1日以上（例えば240分以上）とし、技能編は1日（6時間）とする。受講者数は20人程度を想定。受講修了者は市民講師の役割を担う。

知識編（必須）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習目標 ・受講者の自己紹介 	20分
2	消費者問題概論 (注)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題の歴史 ・最近の消費者問題、事例 ・法制度 ・行政の体制 	90分
昼休憩			60分
3	契約の基礎知識 (注)	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の事例 ・関連する法制度 	90分
休憩			10分
4	消費者信用と多重債務 (注)	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の事例 ・関連する法制度 	90分

※ 合計360分。例えば、10:00～16:00で実施

注 中級編より広範囲かつ高度な内容。専門用語をより多く使い（用語解説も含む）、法制度についてもより詳しく、体系的に取り上げる

知識編（選択必修）

	テーマ	主な内容	時間
1	インターネット・携帯電話のトラブルと対策	トラブルの実態や対処法	120分
2	食生活を考える	食品の偽装表示や安全性に関する問題など	120分
3	くらしのなかの環境問題	商品の購入、使用、廃棄に関連する環境問題の現状など	120分

※ 半日単位で随時実施。このなかから、一定の内容（例えば2テーマ以上）を履修すれば、市民講師として活動できる

知識編（選択）

	テーマ	主な内容	時間
1	身近な製品事故	事例、政府の対応策など	120分
2	住宅の品質と安全性	耐震偽装表示問題、住宅関連の品質保障制度など	120分
3	くらしと経済	金融トラブルの実態など	120分
4	くらしのなかの社会保障制度	公的年金や健康保険制度など	120分
5	ファイナンシャルプランニング	個別の生活設計から将来のリスクの明確化など	120分
6	くらしのなかの知的財産権	知的財産権侵害の事例、著作権など	120分
7	持続可能な消費～環境と経済活動	持続可能な消費への転換に向けた企業の取組の紹介など	120分
8	くらしと司法	日本の裁判制度、司法制度改革、裁判員制度、消費者団体訴訟制度、法テラスなど	120分
9	地方公共団体における消費者行政について	消費者行政の取組の具体例など	120分
10	その他	自治体で必要と判断したテーマ	120分

※ 半日単位で随時実施

技能編

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の学習目標 ・ グループ分け 	30分
2	消費者教育概論 消費者教育指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者教育の目的 ・ 教材紹介 	30分
休憩			10分
3	講座プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者設定（任意） ・ テーマ設定（任意） ・ 講座プランシートの作成 	50分
昼休憩			60分
3	講座プランの作成 （続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座プランシートの作成 	80分
休憩			10分
4	講座プランの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬講座 ・ 相互評価 	90分

※ 合計 360 分。例えば、10:00～16:00 で実施

② 学習初期段階の知識編の内容を絞り、いくつかの段階で講師を育成するカリキュラム

必須テーマは、知識編は半日、技能編は1日かけて実施する。選択必修テーマは、知識編は半日単位、技能編は1日単位で随時実施する。受講者は20人を想定。

知識編（必須）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習目標 ・受講者の自己紹介 	40分
休憩			10分
2	消費者問題概論	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題の歴史 ・最近の消費者問題、事例 ・法制度 ・行政の体制 ・クーリング・オフの概要 	70分

※ 合計120分。例えば、13:00～15:00で実施

技能編（必須）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習目標 ・グループ分け 	30分
2	消費者教育概論 消費者教育指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育の目的 ・教材紹介 	30分
休憩			10分
3	講座プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者設定（講師指定） ・テーマ設定（講師指定） ・講座プランシートの作成 	50分
昼休憩			60分
3	講座プランの作成 （続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・講座プランシートの作成 	80分
休憩			10分
4	講座プランの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに模擬講座 （4人グループで15分程度） ・グループ同士で相互評価 	90分

※ 合計360分。例えば、10:00～16:00で実施

知識編（選択必修）

	テーマ	主な内容	時間
1	契約の基礎知識	契約トラブルの実態、クーリング・オフ制度など	120分
2	消費者信用と多重債務	多重債務の実態、未然防止策、解決方法など	120分
3	インターネット・携帯電話のトラブルと対策	トラブルの実態や対処法	120分
4	食生活を考える	食品の偽装表示や安全性に関する問題など	120分
5	くらしのなかの環境問題	商品の購入、使用、廃棄に関連する環境問題の現状など	120分
6	身近な製品事故	事例、政府の対応策など	120分
7	住宅の品質と安全性	耐震偽装表示問題、住宅関連の品質保障制度など	120分
8	くらしと経済	金融トラブルの実態など	120分
9	くらしのなかの社会保障制度	公的年金や健康保険制度など	120分
10	ファイナンシャルプランニング	個別の生活設計から将来のリスクの明確化など	120分
11	くらしのなかの知的財産権	知的財産権侵害の事例、著作権など	120分
12	持続可能な消費～環境と経済活動	持続可能な消費への転換に向けた企業の取組の紹介など	120分
13	くらしと司法	日本の裁判制度、司法制度改革、裁判員制度、消費者団体訴訟制度、法テラスなど	120分
14	地方公共団体における消費者行政について	消費者行政の取組の具体例など	120分
15	その他	自治体で必要と判断したテーマ	120分

※ 各テーマは半日単位で随時実施する。一定の内容（例えば6テーマ以上）を履修すれば、市民講師として活動できる

技能編（選択必修）

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の学習目標 ・ グループ分け 	30分
2	消費者教育概論 消費者教育指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者教育の目的 ・ 教材紹介 	30分
休憩			10分
3	講座プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者設定（任意、随時変わる） ・ テーマ設定（任意、随時変わる） ・ 講座プランシートの作成 	50分
昼休憩			60分
3	講座プランの作成 （続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座プランシートの作成 	80分
休憩			10分
4	講座プランの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬講座 ・ 相互評価 	90分

※ 合計 360 分。例えば、10:00～16:00 で実施。一定の回数（例えば 2 回以上）を履修すると、市民講師として活動できる

※ 「技能編（必須）」と異なる点は、講座プランの対象者およびテーマは任意とし、受講者または自治体が設定できること、また、講座プランの作成・発表は必ずしもグループでなく、個人でもできることである

③ 知識編の内容を技能編に含ませた、技能編のみのカリキュラム

講義の時間は最小限とし、演習を重視したカリキュラム。1日単位で随時実施する。受講者は、演習を通して、必要な知識を獲得していく。テーマの種類、レベルを複数設定する。

	テーマ	内容	時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習目標 ・グループ分け 	30分
2	消費者問題／教育概論 消費者教育指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題／教育の概要 ・教材紹介 	30分
休憩			10分
3	講座プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者設定（講師指定） ・テーマ設定（上記2の内容） ・講座プランシートの作成 	50分
昼休憩			60分
3	講座プランの作成 （続き）	<ul style="list-style-type: none"> ・講座プランシートの作成 	80分
休憩			10分
4	講座プランの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに模擬講座 （4人グループで15分程度） ・グループ同士で相互評価 	90分

※ 合計360分。例えば、10:00～16:00で実施

※ 一定の回数（例えば5回以上）を履修すれば、市民講師として活動できる